

# 事例

## 幼小人事交流の取組み

— 体験から得るものは大きい —



### 1. 実践の概要

#### (1) 大阪府のめざす幼小人事交流

大阪府では、平成16年度から「幼小人事交流」を実施している。これは、同一市町村内の小学校と幼稚園との連携を推進することにより、幼稚園から小学校における育ちを途切れることなく適切に引き継ぐとともに、指導内容の系統性及び指導方法の一貫性の確立をめざして、公立小学校と公立幼稚園の教員を相互に異動させるものである。

この幼小人事交流を実施しているのは、箕面市、池田市、吹田市、東大阪市、岸和田市の5市である。(岸和田市は平成17年度から、箕面市は平成18年度から、池田市は平成17年度終了)

同じ教員といっても教育内容や指導法、学校園文化が違うので、1年目は仕事の流れをつかむだけでも容易ではない。

小学校から幼稚園へ異動した教員が一番とまどうのは、時間割と教科書がない事だ。「チャイムという区切りがないためにトイレに行くタイミングもつかめない。」「遊びを通した指導についても、遊んでいる子どもたちにどんな働きかけをしたらいいのかわからなかった。」という。

幼稚園から小学校へ異動した教員が一番苦労したのは、「限られた授業時間の中で“ねらい”を達成しなければならないことだった。」という。

#### (2) 幼稚園から小学校への異動で

##### ① 小学校の学びにつながる幼稚園での環境設定を見直す

- 質の高い「遊び」と「環境」の設定の重要性

すごろく遊びではもっと数を意識して体感させることが大切だ。玉入れなども「1対1」対応など算数の土台を培ういい機会である。「じゅっこ」でなく「じっこ」、「いち、に一、さん、よん」でなく「しー」等、言葉を習う最初の時期に丁寧な言語環境を整える必要がある。鉛筆の持ち方等も、幼稚園の頃から気をつけて指導する必要がある。



##### ② 幼稚園の教員を見て小学校が変わってきた！

- 子ども理解と評価

幼稚園は子どもの成長を総合的に捉えるが、小学校では教科学習が中心である故に子どもの成長を断片的に捉えがちになる。幼稚園教員の子どもへの対応を目の当たりにした小学校では、子どもを総合的に捉えてその頑張りに応じた細かな配慮や評価を見直そうとし始めている。

- 教室掲示の工夫

幼稚園の教員は教室掲示など環境の整備を大切にする。教材として大型紙芝居を工夫したり教室に立体掲示物が工夫されたりしているのを見て、小学校でも教室や廊下の掲示に大変工夫が見られるようになった。



### (3) 小学校から幼稚園への異動で

#### ① 小学校の教員が幼稚園で学んだこと

- 「遊び」が小学校の学びにつながっている。  
例えば氷を作って遊ぶ時も、水を入れたバケツをどこに置いたらいいか、どんな容器がいいかなど、子どもたちなりに色々好奇心を持って試して遊んでいる。
- 環境を通して行う教育  
幼稚園では、子どもたちが、さまざまに試したり工夫したりしながら主体的に遊べるような環境のあり方を重要視している。遊びの中での気づきや発見を通して応用力を身に付けるなど環境に関わる力を育てている。
- 友だち関係など人間関係づくり  
問題が起こったら、ゆっくり丁寧にお互いの話を聞き、すぐ対応する。その日起きた問題は、その日のうちに保護者に直接説明をし、理解を得ている。
- 指導体制  
幼稚園では学級の枠を超えて全職員で子どもを援助し指導をしている。



#### ② 幼稚園の教員が小学校の教員から学んだこと

- 先を見通した指導  
幼稚園は小学校と比べると規模は小さいが、幼稚園独自の教育を大切にしながらも、子どもが小学生になった時の姿を見通して、基本的な生活習慣などをしっかり身につけさせるようにする必要がある。また、自分の気持ちを表現できるように幼稚園のうちからコミュニケーション力を育てる必要がある。
- 適切な早期対応  
幼稚園では、最近配慮の必要な子どもが増えてきた。その様子を保護者に伝えられないままに、小学校に入学したら成長するだろうと過ごしてきたケースがあった。子どもたちが小学校で困らないように、できるだけ早期に適切な対応をしておく事が大切である。

#### 小学校の教員を受け入れた園長先生にインタビュー

##### 幼小協働での検討の場を

幼稚園教諭は小学校低学年の教科書「生活科」の単元・活動内容・めざす子どもの姿・支援と留意点を「幼稚園教育要領」と照らし合わせてみると、幼稚園との共通性と相違点がわかり、小学校の活動の一端を知ることができる。小学校の教員には、「幼稚園教育要領」から幼稚園の基本を知っていただきたいと思う。幼稚園サイドで小学校を見通したカリキュラムを単独で作成できるものではないし、また小学校サイドからも同じことが言えると思う。幼小協働での検討の場を作ることができればよいと思う……。

